

聴力と発音の同時訓練

——大学第2外国語中国語授業における実践と調査分析——

閻 瑜

Simultaneous Training in Listening and Pronunciation Practical Implementation

Survey Analysis in University Chinese Language Courses as a Second Foreign Language

YAN Yu

要 旨

日本学习汉语的学生由于能够阅读汉字，因此往往容易疏忽听力和发音的练习。在大学2外汉语教学中，由于学习时间有限，如何有效进行听力和发音的训练一直是一个具有挑战性的问题。本文基于以往的研究成果，认为听力和发音是相互关联的，因此应同时进行训练。笔者选择了大学指定教材的课文作为训练材料，采用了课堂内练习和课后布置作业的方式，对大约200名学生进行了为期一年的训练。本文详细记录了这一训练的方法及学生在这一过程中的变化。此外，还进行了问卷调查，并对调查结果进行了深入分析。问卷调查的结果显示，采用这种同时训练听力与发音的方法，能够有效提高学生的语言技能水平。本文强调了在大学2外汉语教育中同时进行听力与发音训练的重要性，并试图提供一种有效的训练方法，以期改进大学2外汉语教学提供有益的建议，同时也为汉语学习者提供更优质的学习体验。

キーワード：聴力、発音、同時訓練、本文の活用、授業中と授業後の練習

1. はじめに

1.1 大学の2外中国語教育における問題点

多くの研究と実践から明らかになっているように、聴力と発音は中国語学習において極めて重要である。しかし、日本の学生は漢字を理解できるため、聴力と発音の練習を軽視する傾向がある。郭春貴（2012）が指摘したように、現在の日本の大学における第2外国語とし

での中国語（以下「2 外中国語」と略す）の授業の教材は、ほとんど音声トレーニングにあまり重点を置かない。また、授業時間が限られているため、教師たちは文法の説明や会話に焦点を当て、基本的な発音にあまり注意を払わないことがよくある。その結果、学生のリスニング能力の不足や発音の誤りなどの問題が生じることがある。

1.2. 聴力と発音のトレーニングにおける先行研究及び課題

聴力のトレーニング方法については、中国国内の研究は通常、中国に留学している外国人学生の学習に焦点を当てるため、ここではその点についての議論は行わない。一方、日本国内では、システムの開発（呉剣明 2003）、練習素材の選択（須山哲治 2010）、教材の編纂（杜英起 2017、何龍 2019・2020）、そしてトレーニング方法（中村俊弘 2003、藤田由香利 2015、竹中佐英子 2017、衛藤安奈 2019）など、様々な側面での先行研究が行われている。現在、日本国内の大学の 2 外中国語の授業は、中国で中国語を学んでいる学生とは異なり、学生は通常、授業の中でしか中国語を聞く機会がなく、聴解力を鍛える特別な授業を提供する大学も少なく、専門の聴解教材を使用することが難しい状況である。さらに、視聴覚室を使用できる大学も非常に限られている。したがって、本稿では、通常の教室で行われている日本国内の大学の 2 外中国語授業の総合コースを研究の対象とする。

発音のトレーニングに関して、多くの学者は、2 外中国語の授業において発音に焦点を当てるか、発音練習の時間を増やす必要性を指摘している（郭春貴 2014、丁雷 2017、王寒松 2018）。また、反復朗読は中国語の発音を習得する効果的な方法であるとされている（衛藤安奈 2019）。さらに、杉本美穂等（2017）は、学生にスマートフォンの発音認識プログラムを活用して発音の練習を促す試みを行い、大島吉郎（2021）は学習目標のチェックリストを作成して発音のトレーニングを行う方法を提案し、李晨（2021）は歌を歌うことを通じて中国語を学ぶことを提案している。発音トレーニングの方法は多岐にわたるが、根本的には多読と多練習が必要であると言える。

須山哲治（2010）は、「聴力」のレベルは「話す」「読む」「書く」という 3 つの高度なスキルに変換できると指摘し、「聴く」能力は「聴く」「話す」「読む」「書く」という 4 つのスキルの中で非常に重要であり、他の 3 つのスキルの基盤となると述べている。同時に、英語の発音やイントネーションの習慣が聴力に影響を及ぼすという研究もあり（劉鉄虹 2019、海月 2022）、中国語の教育は英語とは異なる部分もあるが、この研究成果は参考になるであろう。このように、聴力と発音は互いに影響し合い、相互に促進関係にあることが分かる。

先行研究は、聴力と発音のトレーニングや実践において、それぞれ異なる観点から探究しているが、多くは聴力または発音の一方にしか焦点を当てていない。筆者は、聴力と発音が相互に影響し合い、互いに促進作用を持つとの立場から、聴力と発音の練習を組み合わせ、同時にトレーニングを行うべきだと主張している。

また、筆者が聴力と発音の重要性を強調し、これらのトレーニングを優先する理由は、中

村俊弘（2003）が指摘したことによるものである。彼は、理解または覚えられる中国語の表現が限られている場合、正確で完全な中国語を話すことはできないと述べており、会話自身が困難になることを指摘している。さらに、発音が正確でない場合、豊富な語彙や文法の理解があっても、相手に理解されないばかりか、コミュニケーションが取れなくなるとも指摘している。筆者はこの立場に同意し、会話の練習を効果的に行うためには、聴力と発音を先にしっかりと訓練する必要があると考えている。

限られた時間内で通常の教室で聴力と発音のトレーニングを行う方法について、筆者は授業のデザインを大幅に変更せず、既存の教材の本文を活用し、授業内で本文を聴き、それを再述させるなどの練習を行い、授業外でリスニングの宿題を設定し、CD（教材の音声）を使用して本文を音読させる方法を試みた。1年間にわたる授業内外での聴力と発音のトレーニングを実施し、その効果をアンケート調査と分析を通じて評価し、さらに反省も行った。この取り組みは、実行可能なアプローチをまとめることを目指している。

2. 聴力と発音のトレーニング方法

筆者の以前所属していた大学の2外中国語の授業は、《いつでも中国語1—随時随所学中文—》および《いつでも中国語2—随時随所学中文—》（成田静香他、朝日出版社）という教材が統一的に使用されていた。これらの教材は各レッスンが「対話1」と「対話2」の2つのセクションに分かれており、それぞれが単語、本文、文法、練習から成り立っている。本文は対話形式であるが、《いつでも中国語2—随時随所学中文—》の後半では、対話と短文の2つの形式が使用されている。2外中国語の授業は1年生と2年生向けのもので、各クラスの規模は通常30人前後であるが、少ない場合は約15人、多い場合は40人近くいる。週に2回授業が行われ、各授業は100分間である。授業は日本の教師と中国の教師が交代で行う。

筆者は学生に事前に単語を予習させ、できる限り発音と意味を覚えるように指導した。授業中、通常の本文を読み上げてから訳す段階を省略し、代わりに本文の対話や短文を使用して聴力の練習を行った。具体的な方法は次の通りである（表1を参照）。

表 1 授業内の聴力と発音のトレーニング

順番	項目	所要時間	内容
1	本文を聴く	5 分	本文を見ずに 2～3 回全体を聴く。
2	再述	20 分	一文を聴いてから一文を再述させ、一人では完全に再述できない場合は、複数の学生に分担して再述させる。
3	説明	10 分	教師は難解な単語や文法ポイントを簡潔に説明する。
4	シャドウイング	5 分	学生に教科書を見ながら CD（教材の音声）と一緒に本文を読ませ、理解しにくい部分に特に注意を払わせる。
5	発音指導	15 分	学生に本文を順番に朗読させ、発音指導を行う。
6	通訳練習	5 分	本文を使用して通訳の練習を行い、教師が日本語で話すと、学生はすぐに中国語で答えるようにする。
7	発表	5 分	時間が許す限り、2 人 1 組で本文を感情を込めて朗読し、または暗唱して発表を行う。

授業後の宿題は、リスニングと朗読の 2 つで構成されている。期末には、二年生のすべての学生に中国語で自己紹介文を作成させ、これを暗唱させ録画して提出させた。具体的な内容は以下の通りである（表 2 を参照）。

表 2 授業後の聴力と発音の宿題

順番	項目	内容
1	リスニング宿題	授業内で学んだ文と文法ポイントに基づいて、3 つの文を録音し、学生にそれらの文を聞き取って答えを書いて提出させる。
2	朗読宿題	CD（教材の音声）に従って授業内で学んだ本文を反復して朗読し、その朗読音声を提出させる。
3	自己紹介のビデオ	期末には、2 年生に自己紹介文を作成させ、それを暗唱したビデオを提出させる。

上記のように、聴力のトレーニングにおいて、筆者は事前に単語を予習させた後、授業内でのリスニング練習やシャドウイング練習を実施し、そして宿題としてリスニング課題を設定した。多くの学者も、短文のリスニング、聞き取り、およびシャドウイングの練習を通じて、聴力のトレーニングを行い、良好な効果を上げている。例えば、須山哲治（2010）は単語の予習とリスニング練習を組み合わせたトレーニング方法を用いて、良好な成果を挙げた。また、聞き取りとシャドウイングは聴力のトレーニングの効果的な方法である。中村俊弘（2003）は、翻訳トレーニングを参考にし、聞き取りとシャドウイングの重要性を強調し

ている。彼の研究は中国語専攻学生を対象にしているが、その基本的な原則は外国語としての中国語の聴力教育にも適用でき、参考になると考えられる。さらに、竹中佐英子（2017）は聞き取り練習を通じて学生の聴力のトレーニングを行い、聴写試験の回答状況を分析し、日本人の中国語聴力の難易度とその原因を調査した。また、藤田由香利（2015）は、学生の聴力の向上を目指して、翻訳トレーニング、シャドウイング法、および即座の反応トレーニングを組み合わせた方法を試みた。

発音のトレーニングでは、筆者は授業内でのシャドウイングや発音指導に加えて、授業外で学生に本文を反復して朗読し、その朗読音声を提出させた。衛藤安奈（2019）は、学生にテキストを繰り返し朗読させ、発音トレーニングを行った結果、2つの課題が浮かび上がったと述べている。第一に、20～30人の学生による連続した発音トレーニングは体力を必要とし、毎回の授業での朗読テストは理想的ではあるが、学生の発音状況を毎回記録することは教師の負担を大幅に増加させることになる。第二に、30人規模のクラスでの朗読テストはかなり時間を要する傾向がある。筆者は、授業内での発音指導に加えて、授業後に学生に自分の最も満足のいく朗読音声を提出する宿題を設定し、教師が学生の朗読状況を段階的に確認できるようにした。これにより、体力の問題が解決し、記録と朗読テストの時間を節約でき、教師の負担も適度に軽減され、上記の2つの課題が基本的に解決されたと言える。

3. 聴力と発音のトレーニングの効果

1年間にわたる、授業内での本文のリスニングや通訳の練習、および授業外でのリスニングと朗読の宿題の組み合わせによるトレーニング方法により、多くの学生が次第に中国語を聞き取ることができ、中国語を話す自信を持つようになり、朗読がスムーズになり、話す中国語も基本的に他の人に理解されるようになった。

以下は、3人の学生の朗読または暗唱の録音内容と発音の変化に関する記録である。

3.1 学生 A の朗読の変化の状況

まず、学生 A（一年生、女性）の2回の朗読録音の内容と朗読エラーの比較表（表3を参照）を見てみよう。

学生 A 第1回朗読録音（2021年5月）の内容

藤田：你看，那是我们班的汉语老师。

程成：她姓什么？

藤田：姓张，不对，她姓赵。

程成：中国人姓张、姓赵的都很多。

藤田：你的姓不太多吧？

程成: 我不知道, 可能也不少。

【藤田: ほら、あれは私たちのクラスの中国語の先生です。

程成: 彼女の名前 (苗字) は何ですか。

藤田: 張です、いや、違う、趙です。

程成: 中国人の中には、苗字が張や趙の人が多いですね。

藤田: あなたの苗字はあまり多くないですか。

程成: わかりませんが、おそらくそれほど少なくはないでしょう。】

(《いつでも中国語 1 — 随时随地学汉语 —》第 2 課対話 2 の本文)

学生 A 第 2 回朗読録音 (2021 年 11 月) の内容

藤 田: 我的英语发音总是有问题。

王丹樱: 你应该多听, 多说, 多练习。

藤 田: 明天有口语小测验, 就是这篇短文。

王丹樱: 不要紧张, 多听几遍录音。

藤 田: 英语老师很厉害, 我得好好地准备准备。

王丹樱: 加油, 一定没问题!

【藤 田: 私の英語の発音はいつも問題があります。

王丹樱: もっと聞いたり、話したり、練習したりすべきです。

藤 田: 明日は口頭の小テストがあります。この文章です。

王丹樱: 緊張しないで、録音を何度も聞いてみてください。

藤 田: 英語の先生はとても厳しいです。しっかりと準備しなければ。

王丹樱: 頑張って、絶対に大丈夫ですよ!】

(《いつでも中国語 1 — 随时随地学汉语 —》第 8 課対話 2 の本文)

学生 A の朗読エラーの比較表 (表 3 を参照) からわかるように、2021 年 5 月の朗読では、声調がほぼすべて誤っており、子音の発音にもいくつかの問題があった。半年後、子音の発音は正確になり、第 1 声と第 2 声の声調も改善された。しかし、第 3 声、特に第 4 声の発音にはまだ問題が残っている。さらに、厳密に言えば、「多」の母音の中の「u」の発音もまだ完璧ではないようである。

このような改善の兆候はあるものの、引き続き声調と発音のトレーニングを続けることが重要であることが示唆されている。特に声調の正確な習得は、中国語の発音において重要な要素の一つである。学生 A に対して、継続的なサポートと練習を提供することが、彼女の発音スキルを向上させるのに役立つのであろう。

表3 学生Aの2回の朗読録音の発音エラー比較表

時間	子音の朗読エラー	母音の朗読エラー	声調の朗読エラー
2021年5月	sh (是) x (姓) zh (张, 知道)	無し	ほとんど全てが間違っている
2021年11月	無し	u (多)	jiùshì, shì (就是, 是) kǒu (口语) duǎn (短文) lù (录音)

3.2 学生Bの朗読の変化の状況

学生B（一年生、男性）の3回の朗読録音の内容と朗読エラーの比較表（表4を参照）を見てみよう。

学生B 第1回朗読録音（2021年6月）の内容

藤 田：您还要别的吗？

中国客人：我还想买几张明信片。

藤 田：有，在这儿，您看，都很可爱。

中国客人：有没有人民币5块钱以下的？

藤 田：明信片都是80日元一张。

中国客人：那好，今天先买这些。

【藤 田：他に何かお求めですか。

お客様：いくつかのハガキを買いたいです。

藤 田：はい、こちらにあります。ご覧ください、どれも可愛らしいですよ。

お客様：人民币5元以下のものがありますか。

藤 田：ハガキはすべて1枚80円です。

お客様：それでは、今日はこれだけ買います。】

（《いつでも中国語1—随时随地学汉语—》第5課対話2の本文）

学生B 第2回朗読録音（2021年12月）の内容

藤 田：到了，从这儿进去，到9号站台。

中国人A：好的，好的。让您受累了！

中国人B：谢谢您带我们过来！

藤 田：没什么，你们太客气了。再见！

中国人B：幸亏遇到了他，要不又走错了。

中国人 A：要开车了，你快坐下来吧。

【藤 田：着きました。ここから入って、9 番ホームに進んでください。

中国人 A：分かりました。お疲れ様でした！

中国人 B：ここまで案内してくださってありがとう。

藤 田：いいえ、気にしないでください。さようなら！

中国人 B：彼に出会えて本当によかった。さもないと、また迷子になるところでした。

中国人 A：もうすぐ発車しますよ。早く座ってください。】

(《いつでも中国語 1 — 随时随地学汉语 —》第 10 課対話 2 の本文)

学生 B 第 3 回朗読録音 (2022 年 5 月) の内容

程 成：你们觉得今天的戏怎么样？

藤 田：我觉得很有意思。今天的戏跟你们以前看的一样吗？

王丹樱：有的地方跟我以前看的不一樣。

藤 田：哪个更好？

王丹樱：今天的戏比以前的好。真谢谢你的京剧票！

程 成：是啊，京剧票比电影票贵多了。

【程 成：今日の舞台、どうだったと思いますか。

藤 田：面白かったと思います。今日の舞台は、以前に見たものと同じでしたか。

王丹樱：いくつかの部分は、以前に見たものとは違いました。

藤 田：どちらが良かったと思いますか。

王丹樱：今日の舞台の方が以前のよりも良かったです。本当に京劇のチケットをくれてありがとう！

程 成：そうですね。京劇のチケットは映画のチケットよりもずっと高いですから。】

(《いつでも中国語 2 — 随时随地学汉语 —》第 2 課対話 2 の本文)

表 4 の学生 B の朗読エラーの対比表からは、母音のエラーが比較的目立っており、第 4 声の声調もうまく把握できていないことがわかる。しかし、半年後になると、母音のエラーは基本的に修正され、第 4 声の声調のエラーも減少した。2022 年 5 月の朗読状況を見ると、「不」の子音「b」の発音と「以前」の声調の一部を除いて、他の部分は基本的に正確である。また、録音からも朗読が非常に流暢であることが確認できる。

この学生の改善は非常に印象的であり、声調と発音の向上に対する彼の取り組みが報われたことを示している。継続的な練習とサポートが今後も役立つであろうが、その努力と成果を称賛すべきである。

表4 学生Bの3回の朗読録音の発音エラー比較表

時間	子音の朗読エラー	母音の朗読エラー	声調の朗読エラー
2021年6月	r (人民币)	ao (要) ing (明信片) u (五块钱) ian (先) e (这) ie (些)	piàn (明信片) kàn (看) ài (可爱) yì (一张)
2021年12月	d (到) z (走)	無し	yù (遇到)
2022年5月	b (不)	無し	yǐqián (以前)

3.3 学生Cの朗読の変化の状況

学生C(2年生、女性)の2回の朗読録音と期末に提出した自己紹介ビデオの音声の内容、および発音の変化の比較表(表5を参照)を確認してみよう。

学生C 第1回朗読録音(2021年4月)の内容

- (1) 这台电脑有点儿贵。
- (2) 他家有点儿远。
- (3) 今天有点儿热。

【(1) このコンピュータは少し高いです。

- (2) 彼の家は少し遠いです。

- (3) 今日少し暑いです。】

(《いつでも中国語2—随时随地学汉语—》第3課対話2の練習問題の一部)

学生C 第2回朗読録音(2021年11月)の内容

藤田: 中国的旗袍种类真丰富啊!

杰克: 是啊, 哪件都很漂亮。

藤田: 你看这件怎么样?

杰克: 样式不错, 很文雅, 不过颜色太暗了吧?

藤田: 我姐姐比较喜欢素一点儿的。

杰克: 我觉得那件红的好看, 显得年轻。

藤田: 好看是好看, 不过红的穿的机会不多。

杰克: 新年快到了, 红的正合适。

藤田: 那倒是。圣诞节也可以穿。

杰克：日本也过圣诞节吗？

藤田：日本人也吃蛋糕，互相送礼物，不过可能没有美国那么热闹。

杰克：北京也这么有圣诞气氛，真没想到！

【藤田：中国のチャイナドレスの種類は本当に豊富ですね！

杰克：そうですね、どれも素敵です。

藤田：この一着、どう思いますか。

杰克：デザインは良いですが、色が暗いように思いますね。

藤田：私の姉は地味なものが好きです。

杰克：私は赤いのが綺麗で、若々しく見えると思います。

藤田：確かに素敵ですが、赤いのはあまり着る機会がありません。

杰克：新年が近づいていますし、赤いのはぴったりですね。

藤田：その通りです。クリスマスにも着ることができます。

杰克：日本でもクリスマスを祝いますか。

藤田：日本でもケーキを食べたり、プレゼントを交換したりしますが、おそらくアメリカほど盛大ではないでしょう。

杰克：北京でもこんなにクリスマスの雰囲気があるなんて、驚きです。】

（《いつでも中国語 2 — 随时随地学汉语 —》第 9 課対話の本文）

学生 C 自己紹介ビデオ（2022 年 1 月）の内容

大家好！我叫〇〇〇〇。我是日本人。我是〇〇〇〇大学二年级的学生。我今年 21 岁。我有一个妹妹，我家有四口人。我喜欢看电影，我喜欢看中国电影《白蛇传》。我也喜欢做饭。我学了两年汉语了。不过我汉语说得不太好。我觉得汉语很难，可是我喜欢学习汉语。我还没去过中国，我想去中国留学。认识你们很高兴，今后请多关照！

【みなさん、こんにちは！私は〇〇〇〇と申します。日本人で、〇〇〇〇大学の 2 年生です。今年で 21 歳になりました。妹が 1 人います。家族は 4 人です。私は映画鑑賞が好きで、特に中国の映画「白蛇伝」がお気に入りです。また、料理も好きです。中国語を 2 年間学んでいますが、まだ上手く話せません。中国語は難しいと感じますが、学ぶことが楽しいです。まだ中国に行ったことがありませんが、将来的には中国で留学したいと考えています。皆さんと知り合えて嬉しいです。今後ともよろしくお願いします！】

表 5 に示されている通り、学生 C は最初は全体的に多くの誤りがあり、特に「点儿」という言葉の発音において目立つ問題があった。しかし、半年後には、「点儿」と「热」という言葉の発音は正確になり、子音と声調も明らかに改善された。期末に提出された自己紹介の暗唱ビデオでは、子音の発音エラーと第 3 声以外の声調エラーがなくなったことが確認されたが、第 3 声の声調エラーはまだ残っている。また、ビデオからは話す速度が自然になり、流

暢さも向上し、他の人が理解しやすくなったが明白である。このような進歩は、学生 C の継続的な努力とトレーニングの成果であり、今後も練習とサポートを継続して提供することが重要であると言える。

表 5 学生 C の 2 回の朗読録音と自己紹介ビデオの発音エラー比較表

時間	子音の朗読エラー	母音の朗読エラー	声調の朗読エラー
2021 年 4 月	t (台) j (家, 簡単)	ianr (点儿) e (热)	shū (书) yuǎn (远) tiān (今天)
2021 年 11 月	無し	eng (丰) en (人) u (物)	tài (太)
2022 年 1 月 (暗唱)	無し	ǔ (去)	yǒu (有) liǎng (两) hěn (很) kě (可是) xǐ (喜欢) xiǎng (想)

上記の 3 人の学生の事例から、学生の子音、母音、声調の発音が明らかに改善されていることが分かる。録音からも、学生たちの朗読速度とリズムが自然になり、朗読も流暢になったことが確認できる。これは、継続的なトレーニングと努力の成果を示している。声調と発音の向上は、外国語の学習において重要な一歩であり、これからも継続的な練習とサポートが彼らのスキル向上に貢献することであろう。

4. アンケート調査に対する分析と反省

一年の学習が終了した後、195 人の学生に対して匿名のアンケート調査をインターネットを通じて実施した。合計 111 件の回答を収集し、回収率は 57%であった。アンケートの内容は以下の通りである（表 6 を参照）。

表 6 アンケート調査の内容

1. あなたは中国語の授業にどれぐらい取り組みましたか。 ①真面目に ②比較的真面目に ③あまり真面目ではない
2. 本文を繰り返して聴くことにより、自分の聴解力が向上したと思いますか。 ①向上した ②少し向上した ③向上しなかった
3. CD (教材の音声) を聴きながら本文を朗読することで、自分の発音が改善されたと感じましたか。 ①改善された ②少し改善された ③改善されなかった
4. 本文を朗読する練習を通じて、中国語を話すことに自信を持つようになりましたか。 ①自信を持つようになった ②少し自信を持つようになった ③まだ自信を持っていない
5. どの順番が授業に最適だと思いますか。 ① 単語⇒文法⇒本文⇒練習 ② 単語 (予習) ⇒本文 (リスニング練習) ⇒文法⇒練習 ③ 単語⇒文法⇒練習⇒本文
6. 中国語の授業についてどのような感想や提案がありますか。

第 1 の質問「あなたは中国語の授業にどれぐらい取り組みましたか」に対して、55%の学生が授業に真剣に取り組んでおり、44%が比較的真剣に取り組んでいると回答し、1%の学生が真剣に取り組んでいないと回答した (図 1 を参照)。これは、学生が基本的に中国語の授業に真剣に参加しており、このアンケート調査の結果は一定の参考価値があると言えよう。

第 2 の質問「本文を繰り返して聴くことにより、自分の聴解力が向上したと思いますか」に関して、35%の学生が、本文を聴いて本文を繰り返すことでリスニング能力が向上したと感じており、55%の学生が少し向上したと感じている (図 2 を参照)。また、質問 6 の自由回答の結果からは、学生のリスニング能力の向上が実感できると示唆されている。一部の学生がショッピングモールや電車での中国語の放送を一部理解できるようになったり、中国のテレビドラマの単語や表現方法を理解できるようになり、中国語の学習に興味が増したと回答している。

授業で本文を使用したリスニング練習は効果があるようであるが、10%の学生がリスニング能力が向上しなかったと回答している。その原因として、1つは本文を使用したリスニング練習が学生にとってあまり魅力的でない可能性が考えられる。そのため、学生が興味を持つ他のトレーニング資料を導入し、本文を使用した精密な聴力トレーニングと短編の童話やアニメーションを使用した広範な聴力トレーニング方法を試す必要があると考えられる。2 つ目の原因は、教師が学生に対して集中力を高める方法を提供し、授業への積極性を促進することも重要である。

1. あなたは中国語の授業にどれぐらい取り組みましたか。

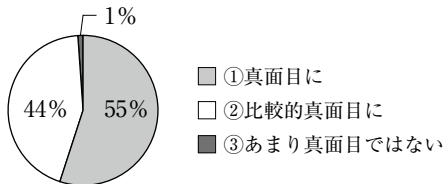


図1 アンケート調査の質問1の回答結果

2. 本文を繰り返して聴くことにより、自分の聴解力が向上したと思いますか。

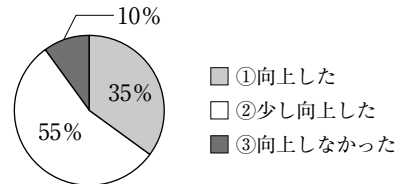


図2 アンケート調査の質問2の回答結果

第3の質問「CD（教材の音声）を聴きながら本文を朗読することで、自分の発音が改善されたと感じましたか」に関して、37%の学生が、CD（教材の音声）を聴いて課文を反復して朗読することで発音が改善したと感じており、59%の学生がわずかに改善したと感じ、わずか4%の学生が改善していないと感じている（図3を参照）。発音の練習と発音の改善に効果的な方法であることがわかり、良好な発音は会話の練習の基盤となることが示唆されている。

第4の質問「本文を朗読する練習を通じて、中国語を話すことに自信を持つようになりましたか」に関して、20%の学生が、課題の朗読練習を通じて、中国語を話す自信を持つようになったと感じており、63%の学生がわずかに自信を持っているが、17%の学生がまだ中国語を話す自信がないと感じている（図4を参照）。学生が中国語を積極的に話すためには、授業での会話内容を日常生活に密接に関連させるだけでなく、学生が授業で積極的に中国語を話す機会を増やす必要があるようである。

3. CD（教材の音声）を聴きながら本文を朗読することで、自分の発音が改善されたと感じましたか。

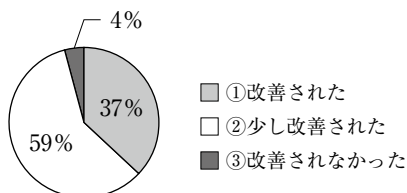


図3 アンケート調査の質問3の回答結果

4. 本文を朗読する練習を通じて、中国語を話すことに自信を持つようになりましたか。

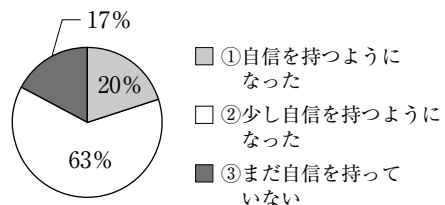


図4 アンケート調査の質問4の回答結果

第5の質問「どの順番が授業に最適だと思いますか」を設計した理由は、筆者が新しい教育モデルを試しているからである。郭春貴（2008）の意見に賛同し、限られた2外中国語教

育の時間内で、聴力と発音の練習に重点を置き、会話の練習を徹底し、文法の説明は簡潔に行っている。さらに、本文を聴くときに新しい文法に遭遇した際に、最低限の説明だけを行い、本文を学んだ後に改めて文法を説明する方法を採用している。しかし、70%の学生が従来の学習順序を支持し、23%の学生が本文を聴いてから文法を学ぶ方法を試してみたいと考えていることが分かった(図5を参照)。筆者は現在、一部のクラスで本文を聴いた後に文法を学ぶ順序を試しており、具体的な状況は今後報告する。

5. どの順番が授業に最適だと思いますか。

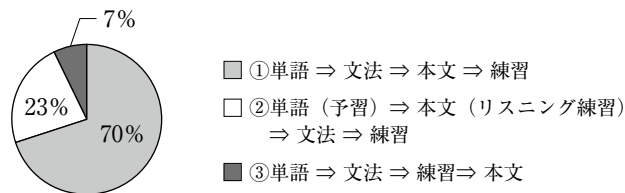


図5 アンケート調査の質問5の回答結果

第6の質問「中国語の授業についてどのような感想や提案がありますか」という自由回答の結果によれば、リスニングに関しては、一部の学生が商店や電車での中国語放送を理解できるようになり、また中国のテレビドラマの単語や表現方法を理解することで、中国語の学習に対する興味が高まったと回答している。これは、授業で本文を使用したリスニング練習が効果的であることを示唆している。

発音に関しては、多くの学生が授業での発音指導と個人的な練習が必要であり、それが効果的であると回答している。単語がスムーズに発音できるようになったり、練習した文を時間がたってもしっかりと覚えているという回答がある。さらに、CD(教材の音声)を使った本文のリスニング練習を通じて発音の精度が向上し、リスニング能力も向上したという回答もある。

会話に関しては、一部の学生は教科書の内容を話すことができるようになったが、自分が表現したい内容を即座に話すことができないと回答している。これは、会話の内容が教科書から離れると、学生がまだ自分から発言することが難しいことを示唆している。

以上の結果から、授業での聴力と発音練習が効果的であることが示されており、会話のスキルを向上させるためには実際の会話機会が必要であることがわかる。

5. おわりに

本稿は、日本人の中国語学習者が漢字で内容を理解しやすいため、聴力と発音のトレーニングが疎かにされる傾向に焦点を当て、時間が制約される大学の2外中国語授業において、聴力と発音の同時に強化するトレーニング方法を提案している。教材の本文を活用し、1年

間にわたり約 200 人の学生に、授業内と授業後にトレーニングを行った。アンケート調査の結果から、この教材の本文を活用した聴力と発音のトレーニング方法は実行可能であり、リスニングスキルの向上と発音の改善、中国語を話す自信の向上に役立つことが示された。

一方で、筆者は聴力と発音の練習に重点を置いた結果、学習者の実際の会話経験も非常に重要であることを再認識した。今後は、会話の実践練習を増やすために、通訳の練習や日常生活に基づいた作文や会話のトレーニングなど、具体的な方法を検討し、学生の会話スキルを向上させる取り組みを進める予定である。また、学生の一部は自己紹介の暗唱が特に効果的だったと感じたため、暗唱の練習や教材の本文の暗記を増やす提案もある。学生の負担を考慮しつつ、練習の要求を高め、暗唱の練習を増やすことも検討する予定である。このように、聴力と発音の練習に加えて、実際の会話経験を増やす取り組みを強化することで、学生の中国語学習をより効果的にサポートする方法を今後の課題として考えている。

謝辞 本稿は中国語教育学会第 20 回全国大会における口頭発表に基づいて作成したものである。学会では大変有益な質問とコメントをいただき、深く感謝申し上げます。

参考文献

- 衛藤安奈 2019. 初級中国語クラスのエデュケーション現場における発音指導の試み：反復練習の実施法と効果、およびその限界に対する幾つかの対処法について、『慶應義塾外国語教育研究』16：51-71 頁
- 藤田由香利 2015. 通訳訓練法を用いた中国語のリスニング力向上のための一考察：シャドウイングとクイック・レスポンスの導入、『杏林大学外国語学部紀要』27：155-170 頁
- 中村俊弘 2003. 聞き取りを中心とした授業展開の提案——通訳訓練を視野に入れて——、『関西大学外国語教育フォーラム』2：121-127 頁
- 大島吉郎 2021. 学習成果の可視化に関する試案 (1) —— 中国語初級段階における発音習得を中心に ——、『大東文化大学紀要』人文科学 59：193-208 頁
- 杉本美穂・水田佳歩・奥村恵子 2017. スマホ音声認識アプリを用いた自律発音練習 —— 自己課題発見から自律練習への試み ——、『早稲田日本語教育実践研究』5：187-188 頁
- 須山哲治 2010. 中国語のリスニング教授法について：大規模教室への導入の観点から、早稲田大学教育総合研究所『早稲田教育評論』24 (1)：1-22 頁
- 竹中佐英子 2017. 経済学部の中国語教育に関する一考察 (六) —— 中国語リスニングを中心に ——、東洋大学『経済論集』42 (2)：219-232 頁
- 呉劍明・楊達・浦野義頼 2003. リスニングを中心としたウェブ版中国語学習システムの開発、『日本教育工学雑誌』(〈特集〉第二言語学習とその支援に関する教育工学研究) 27 (3)：295-304 頁
- 丁雷 2017. 談談對日本 2 外漢語學習者“聲調難”問題的认识、『島根大学外国語教育センタージャーナル』12：75-87 頁
- 杜英起・董梅香・張佳妮・何龍 2017. 有关日本大学听力教学的探索、『愛知淑徳大学論集——交流文化学部篇——』7：1-7 頁
- 郭春貴 2008. 日本の大学二外漢語課程的教学模式探討、『中国語教育』6：19-33 頁
- 郭春貴 2012. 論日本大学公共漢語課的語音教學、《第 10 屆國際漢語教學研討會論文選》：367-372 頁。北京：萬卷出版公司。
- 郭春貴 2014. 1 周 2 節課的 2 外漢語教學模式探討——以廣島修道大學為例、『中国語教育』12：1-11 頁
- 海月 2022. 浅谈中国大学生英语口语发音对听力的影响——以昆明理工大学津桥学院为例、『校园英语』2022 年 02 期：20-22 頁
- 何龍 2019. 关于汉语听力教育中的词汇教育：词汇教授的集中新尝试、『愛知淑徳大学大学院論文集——グローバルカルチャ・コミュニケーション研究科——』11：91-100 頁

- 何龙 2020. 浅析汉语“视听说”教材的编纂——以日本大学视听说”为例、『愛知淑徳大学大学院論文集——グローバルカルチャ・コミュニケーション研究科——』12: 67-74 頁
- 李晨 2021. 唱歌学中文的教学设计与应用——以日本初级汉语学习者为例、北京外国语大学 2021 年硕士论文
- 刘铁虹 2019. 论大学英语教学中语音能力与听力理解的关系、《智库时代》2019 年 2 月: 172、177 頁
- 王寒松 2018. 对日汉语教学初级阶段教学策略思考、新潟県立大学『国際地域研究論集 (JISRD)』9: 63-72 頁

(えん ゆ 教育推進機構 基礎・教養科 非常勤講師)